

高等学校

平成25年度

# 教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	3
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	22
VII	今後の課題	23

引用・参考文献

<b>研究主題</b>	<b>運動種目の特性を深く味わわせる指導と評価の工夫 ～運動の苦手な生徒、嫌いな生徒の学習意欲を高めるために～</b>
-------------	---

## I 研究主題設定の理由

平成 25 年度から全面実施となった高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月告示）では、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むことの重要性が示されている。

近年の教育研究員においては、これを踏まえて思考力・判断力・表現力の育成を図るための授業や評価の工夫について研究を行ってきている。今年度の高等学校部会は、これまでの研究成果や課題を踏まえ、「思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方について」をキーワードに研究をスタートさせた。

体育では、運動への関心や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜び、その基礎となる運動の技能の知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力が十分に図られていない例も見られるといった課題が平成 20 年 1 月の中央教育審議会の答申において指摘されている。

そこで、高等学校保健体育部会では、長年言われ続けている運動・体育が好き嫌いの生徒の実態について、「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」や先行研究を参考に検討した。運動にいい印象をもっていない生徒がいる、運動する生徒としない生徒の二極化は現実であり、我々研究員の所属校や今までの勤務校での生徒の様子から、運動の得意な生徒、苦手としている生徒のそれぞれが運動の楽しさや喜びを味わえていないのではないかとということであった。

また、先行研究<sup>1</sup>では、体育に対して好意的感情をもっていた学生は教師の指導の仕方に疑問・反感をもっていなく、逆に否定的感情をもっていた学生の大半が教師の指導の仕方に疑問・反感をもっていたと思われる結果となった。教師の指導の仕方が体育・運動の好き嫌いに関わっており、体育・運動嫌いを生み出す原因の一つである、とあった。教師の指導が嫌であった理由として、上手な生徒だけの指導になっていた、やっていることが分からないといった、できない人に対する指導の工夫の不足を多く挙げている。

このことから、運動が苦手な生徒や嫌いな生徒に対して運動の特性を学ぶことができるよう授業展開を工夫することで、運動の楽しさや喜びを味わうことができ、その結果、その運動の特性をより深く味わいたいと思うようになり、学習意欲の高まりにつながっていくのではないかと考えた。そして、そういった生徒の変容が授業の中で起きることで、自身や仲間の課題に応じた活動内容に気付き取り組むといった学習活動の活性化につながっていくと仮定した。

さらに、運動種目の特性を深く味わうことのできる指導とともに、指導改善に生かしていくことができる適切な評価を行うことが、運動が苦手な生徒や嫌いな生徒の学習意欲を高めるために必要ではないかと考え、今年度の研究主題を「運動種目の特性を深く味わわせる指導と評価の工夫～運動が苦手な生徒、嫌いな生徒の学習意欲を高めるために～」とした。

<sup>1</sup> 立木正 「体育嫌いを生み出す原因に関する研究：東京学芸大学学生の意識調査から」 平成 9 年 東京学芸大学紀要第 5 部門第 49 集

## 研究構想図

全体テーマ 新学習指導要領に対応した授業の在り方について

高校部会テーマ 思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方

### ○現状と課題

#### 【現状】

(生徒)

- ・ 運動の機会が減り運動経験が少ないことから、運動に関する知識や技能等が不足している。
- ・ 運動の楽しさや喜びを味わった経験が乏しく、運動に関する学習意欲が低下している生徒がいる。
- ・ 運動が苦手や嫌いといった運動による印象をもっていない生徒がいる。

(教員)

- ・ 生徒に対し、運動種目の特性を十分に味わわせていないのではないか。
- ・ 運動が苦手な生徒や嫌いな生徒に対し、できるようになる手立てを十分にしていないのではないか。
- ・ 運動が苦手な生徒や嫌いな生徒に対し、意欲を引き出す指導がなされていないことがあるのではないか。
- ・ 生徒に対し、学習過程の評価をその後の指導に十分に活用できていないのではないか。

#### 【課題】

- ・ 運動が苦手な生徒や運動が嫌いな生徒が、運動種目の特性を深く味わうことのできる指導をする必要がある。

### 保健体育部会主題

運動種目の特性を深く味わわせる指導と評価の工夫  
～運動が苦手な生徒、嫌いな生徒の学習意欲を高めるために～

### ○仮説

- ・ 運動が苦手な生徒や嫌いな生徒に対して、運動種目の特性を踏まえた、合理的・段階的な練習方法を設定する。
- ・ 分かる・できる気持ちをもてるよう、自己やチームの課題に応じた適切な指導・助言を行う。
- ・ 生徒が自己の技能段階を的確に把握し、自分の課題に応じた練習に意欲的に取り組むよう、生徒一人一人に対し技能の習得状況や思考・判断している様子を教師が丁寧に評価する。
- ・ 生徒は、意欲的に学習し、課題解決の体験や適切な評価により達成感を得られ、新たな目標設定を行い課題解決に取り組むなどの主体的な学習活動を継続して行うようになると仮定する。

### ○研究の方法

- ・ アンケート調査で生徒の運動経験及び生徒の運動に関する意識を事前に把握する。
- ・ ゲームが展開するために、生徒が必要な技能や知識を指導し、評価する計画を立てる。
- ・ 運動種目の特性を踏まえた指導を行い、生徒の技能を高め、知識、思考・判断を深める。
- ・ 身に付けた技能や知識を活用し、運動種目の特性に触れる指導を行い、生徒の思考・判断を促す。
- ・ 計画に基づき適切な評価を行う。
- ・ 評価を踏まえて、授業改善の方策を立てる。
- ・ 生徒の学習意欲が高まると身体活動量(歩数)が増えるとの予想から、その身体活動量を把握する一つの方法として、歩数計を使って授業中の歩数を測定する。

### ○検証方法

- ・ 生徒の意識の変容に関するアンケートを実施し、その結果を分析し、考察する。
- ・ 生徒の技能や授業参加態度について指導前後の様子を記録し、比較分析し、考察する。

## II 研究の視点

- 1 運動の特性の構造について、「効果的特性」「機能的特性」「構造的特性」の観点からまとめる。
- 2 検証授業で実施する体育の領域について、運動が苦手な生徒が種目の特性に最も触れることができる場面を検討する。
- 3 生徒が身に付けた技能や知識を活用し思考・判断できるよう、合理的・段階的な練習方法及び練習した内容を生かすことができる簡易ゲームを検討する。
- 4 生徒が意欲的に取り組むよう、生徒一人一人に対し計画に基づき適切な評価を行うとともに、評価を指導改善に生かしていく。

## III 研究の仮説

- 1 運動が苦手な生徒や嫌いな生徒に対して、運動種目の特性を踏まえた、合理的・段階的な練習方法を設定する。
- 2 分かる・できる気持ちをもつことができるよう、自己やチームの課題に応じた適切な指導・助言を行う。
- 3 生徒が自己の技能段階を的確に把握し、自分の課題に応じた練習に意欲的に取り組むよう、生徒一人一人に対し技能の習得状況や思考・判断している様子を教師が丁寧に評価する。
- 4 生徒は、意欲的に練習し、課題解決の体験や適切な評価により達成感を得られ、新たな目標設定を行い課題解決に取り組むなどの主体的な学習活動を継続して行うようになると仮定する。

## IV 研究の方法

- 1 アンケート調査により、生徒の運動経験及び生徒の運動に関する意識を事前に把握する。
- 2 ゲームが展開するために、生徒が必要な技能や知識を指導し、評価する計画を立てる。
- 3 運動種目の特性を踏まえた指導を行い、生徒の技能を高め、知識、思考・判断を深める。具体的には、バスケットボールではシュート、テニスではストローク（ラリー）、ソフトボールではバッティングについて段階的な練習方法を検討する。
- 4 身に付けた技能や知識を活用し、運動種目の特性に触れる指導を行い、生徒の思考・判断を促す。
- 5 指導と評価の計画に基づき適切な評価を行う。
- 6 評価を踏まえて、授業改善の方策を立てる。
- 7 単元終了時のアンケート調査により、生徒の運動に関する意識の変容を把握・分析をする。
- 8 生徒の学習意欲が高まると身体活動量（歩数）が増えるとの予想から、その身体活動量を把握する一つの方法として、歩数計を使って授業中の歩数を測定する。

## V 研究の内容

### 1 運動の特性

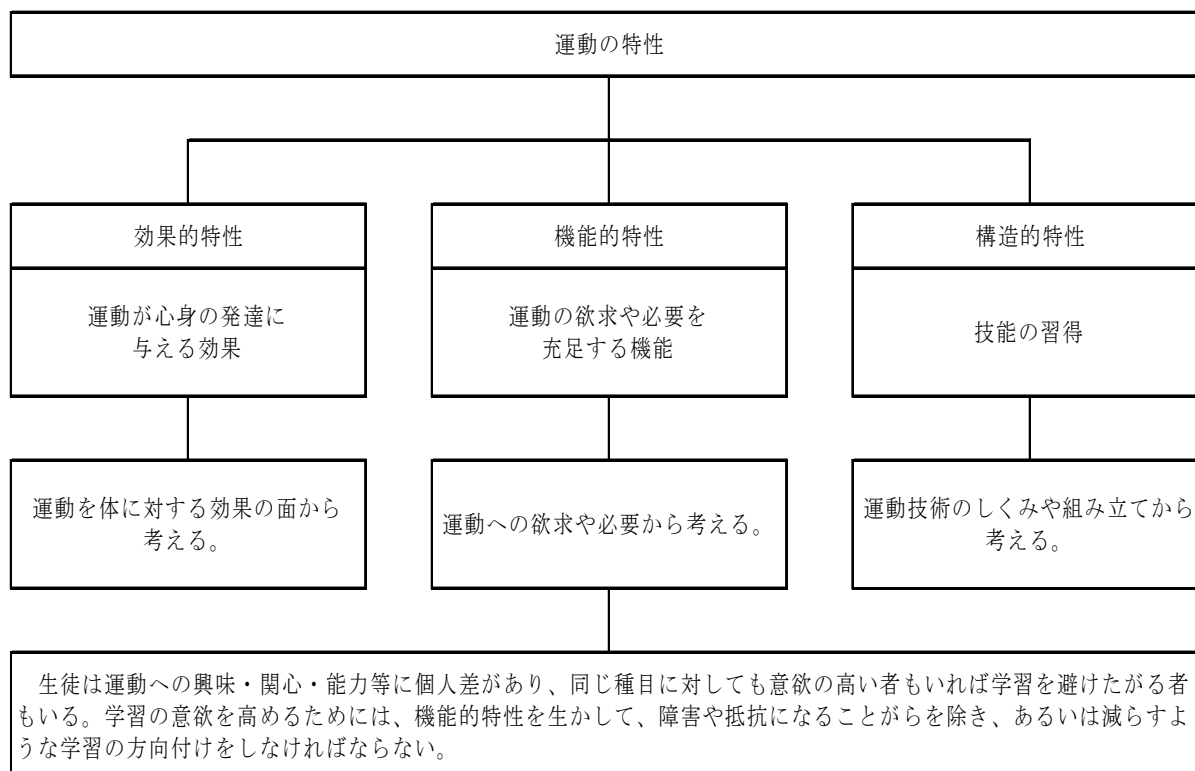
学習を進めるに当たって、運動の特性の構造を理解することが重要である。運動の特性は、先行研究<sup>2</sup>において、「効果的特性」「機能的特性」「構造的特性」の3つでとらえられている（表1参照）。体育の学習においては「構造的特性」や「効果的特性」を踏まえつつ、運動を行う者の欲求を充足する機能、いわゆる生徒が運動を通して運動のもつ魅力や楽しさの「機能的特性」

---

<sup>2</sup> 指導資料「運動の楽しさを味わう学習指導の在り方」 平成21年 鹿児島県総合教育センター 保健・体育 第35号

を味わわせることを重視して学習を進めることが大切である。

表1 運動の特性の構造図



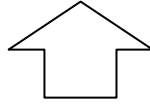
本部会では、運動の特性について高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編及び中学校学習指導要領解説保健体育編を参考に以下の「表2 領域ごとの運動種目の特性（参考）」にまとめた。これらの領域の中から、高校で多く実施されている球技を選択し、ゴール型のバスケットボール、ネット型のテニス、ベースボール型のソフトボールについて、運動の特性の分類を行った（表3「球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）の運動の特性の分類例」）。

表2 領域ごとの運動種目の特性（参考）

体育分野の領域	運動種目の特性
体づくり運動	体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成され、自分や仲間の心と体に向き合って、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、心と体をほぐしたり、体力を高めたりすることができる領域。
器械運動	マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができる運動。
陸上運動	「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動。
水泳	クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなどから構成され、浮く、進む、呼吸をするなどのそれぞれの技能の組み合わせによって成立している運動で、それぞれの泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動。
球技	ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動。
武道	武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動。
ダンス	「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間と共に感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動。

表3 球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）の運動の特性の分類例

	機能的特性	構造的特性	効果的的特性
ゴール型	パスやドリブルのボール操作と仲間と連携した動きによって自陣から相手ゴール前へと侵入し、意図的に得点をねらう攻防や作戦を立てて勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。	2チームが1つのボールを媒介にして、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートをし、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合う競技である。	敏捷性、瞬発力、巧緻性、持久力、調整力、協力、公正、責任
ネット型	ラリーを続ける楽しみのほかに、戦術行動の理解が高まれば、個々の実力を合わせた以上の力を発揮することが出来る運動である。技能や戦術の向上に伴うゲームの質的な高まりに楽しさを味わうことのできる運動である。	ネットを挟んでボールを打ち合い、一定の得点に早く到達することを競う競技である。	敏捷性、瞬発力、巧緻性、持久力、調整力、協力、公正、責任
ベースボール型	攻撃側と防御側とに分かれ、攻防を規則的に交替しながら、一定の回数内の得点で勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。	投げる、捕る、打つ、走るなどの個人技能や、攻撃や守備の戦術が重視され、変化に富んだゲームが展開できる競技である。	敏捷性、瞬発力、巧緻性、持久力、調整力、協力、公正、責任



運動が苦手な生徒が種目の特性に最も触れることができると考えた場面	具体的な指導
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ シュートが入る。</li> <li>・ ゴール下シュートを打つ。</li> <li>・ ドリブルからレイアップシュートを打つ。など</li> <li>○ 相手ゴール前の空間に侵入しシュートをすること。</li> <li>・ パスからレイアップシュートを打つ。など</li> </ul>	P10 参照
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ストロークが打てる。</li> <li>・ 真上から落としたボールをワンバウンドして打つ。</li> <li>・ 近いところからトスされたボールをタイミングを合わせて打つ。など</li> <li>○ ラリーを続けることができる。</li> <li>・ コート上の空いている場所をカバーし、守備のバランスを維持する。など</li> </ul>	P13 参照
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ バットにボールが当たる。</li> <li>・ 止まったボールを打つ。</li> <li>・ 投げたボールに対しタイミングを合わせ身体全体を使って打つ。など</li> <li>○ 打球を捕ることが出来る。</li> <li>・ ゴロやフライなどの飛球の種類に対応してボールを捕る。など</li> </ul>	P16 参照

## 2 単元の目標と評価規準

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。
- ・ ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。
  - ・ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。
  - ・ ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開すること。
- (2) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取組方を工夫できるようにする。

### 評価規準（バスケットボール、テニス、ソフトボール）

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 運動の技能			エ 知識・理解
			ゴール型	ネット型	ベースボール型	
単元の評価規準	<p>・球技の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>・生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた球技を継続するための取組方を工夫している。</p>	<p>・球技の特性や魅力に応じて、ゲームを展開するための作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めて、身に付けている。</p>			<p>・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。</p>
			<p>・ゴール型では、空間への侵入などから攻防を展開するための状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きができる。</p>	<p>・ネット型では、空いた場所をめぐる攻防を展開するための役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きができる。</p>	<p>・ベースボール型では、攻防を展開するための状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などの動きができる。</p>	



	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 運動の技能			エ 知識・理解
			ゴール型	ネット型	ベースボール型	
学習活動に即した具体的な評価規準	<p>①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②フェアなプレイを大切にしようとしている。</p> <p>③役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。</p> <p>④合意形成に貢献しようとしている。</p> <p>⑤互いに高め合い助け合おうとしている。</p> <p>⑥健康・安全を確保している。</p>	<p>①これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。</p> <p>②課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。</p> <p>③チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。</p> <p>④作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。</p> <p>⑤健康や安全を確保・維持するために、自己や仲間の体調に応じた活動の仕方を選んでいる。</p> <p>⑥球技を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。</p>	<p>①守備者のタイミングをはずし、守備者のいないところをねらってシュートすることができる。</p> <p>②味方が作り出した空間にパスを送ることができる。</p> <p>③守備者とボールの間に自分の体を入れて、味方と相手の動きを見ながらボールをキープすることができる。</p> <p>④シュートやパスを受けるために、味方が作り出した空間に走りこむことができる。</p> <p>⑤味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすることができる。</p>	<p>①ボールを相手側のコート守備のいない空間に緩急や高低をつけて打ち返すことができる。</p> <p>②パートナーと連携してネット付近でボールを打ち返すことができる。</p> <p>③ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。</p> <p>④相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。</p>	<p>①身体全体を使ったスイングができる。</p> <p>②ねらった方向へ打ち返すことができる。</p> <p>③タイミングを合わせた捕球ができる。</p> <p>④味方の動きに合わせて送球することができる。</p> <p>⑤仲間の走者に合わせた走塁ができる。</p>	<p>①技術などの名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>②球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>③課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。</p> <p>④競技会の仕方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>⑤審判の方法について、学習した具体例を挙げている。</p>

### 3 実践事例

#### (1) 事例1 領域「球技」 ゴール型 バasketボール

##### ア 学校の実態

- ・ 全日制課程第2学年2クラス2展開授業（女子36名）である。
- ・ 体育授業において、運動が苦手としているが意欲的に活動する生徒が多い。全体的に、技能、思考・判断、知識・理解において努力を要する生徒が多い。学校全体として運動に対する意識が低く、運動部加入率はあまり高くない。

##### イ 指導と評価の計画（8/16時間）

時間	ねらい・学習活動	関	思	技	知	評価方法
<p>&lt;単元のねらい&gt; 自分やチームの課題を解決しながら個人技能と集団技能を高めるとともに、自分たちの技能の程度に合わせたルールを工夫し、みんなで協力しながら相手との攻防に合った作戦を立ててゲームを楽しむ。</p>						
はじめ	<p>活動Ⅰ オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度の学習内容の確認</li> <li>・ 学習のねらい、進め方、Basketボールの特性について</li> <li>・ チームや自分の課題の発見と単元目標の設定</li> </ul>					① 観察
なか	<p>2</p> <p>&lt;ねらい&gt; ゴールの枠内に安定してシュートを打ったり、味方が操作しやすいパスを送ったり、相手から奪われずに次のプレイがしやすいようにボールをキープしたりできるようにする。</p>	①				②
	<p>3</p> <p>&lt;学習の重点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フェイントをかけ守備者のマークをはずし、シュートすること。</li> <li>・ 次のプレイがしやすいように味方の腕付近にパスをすること。</li> <li>・ シュートのポイントについて理解すること。</li> </ul> <p>活動Ⅰ シュート、パス、ドリブルの基本を身に付けるようにする。</p>				③	
	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボール操作</li> <li>・ 技能段階を踏まえたシュート練習（近距離→遠距離） * ゴール下から、ドリブルから、パスから</li> <li>・ 段階的な学習選択</li> <li>・ チームの役割に応じた動き</li> </ul>	②		①		観察
	<p>5 (本時)</p> <p>活動Ⅱ 味方が作り出した空間に走りこみ、シュート動作ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールを工夫したゲーム</li> <li>・ 班別練習</li> </ul>			①		
	<p>6</p> <p>まとめ</p>	<p>まとめのゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで身に付けた技能や審判法を生かして、自分たちで競技運営する。</li> </ul>		②	①	
<p>7</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作戦を立ててゲームを楽しむ。</li> </ul>		③			観察
<p>8</p>		③				

※ 2年次・3年次の2年間で8時間ずつ指導することとする。

※ 学習活動に即した評価基準の未評価部分については3年次に評価する。

ウ 本時（全 16 時間中の 5 時間目）

(ア) 本時の目標

- ・ チームや自分の課題を見付けながら練習に取り組むことができる。
- ・ 提示された練習方法から、自己やチームの課題を見付けることができる。

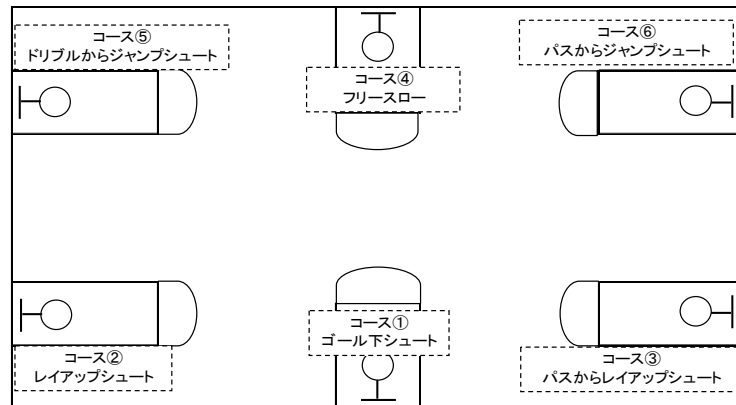
(イ) 本時の展開

	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (方法)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整列、挨拶、出席確認及び健康状態の確認</li> <li>○ 本時のねらいと評価項目の確認</li> <li>○ 用具の準備、準備運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の出欠状況、健康状態を確認する。</li> <li>・ これまでの学習を振り返りながら、本時の目標を確認する。</li> <li>・ シュート動作のポイントを理解し、身に付けるための練習方法を選択する。</li> <li>・ 学習課題の解決に向けて仲間に助言するなど、仲間の学習を援助する。</li> <li>・ 準備運動を行う。</li> </ul>	
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題別シュート練習</li> <li>(1) 仲間の学習を援助することの価値を聞く。</li> <li>(2) ①～⑥コースの中から選択する。</li> </ul> <p>10 ページ「図 1 バasketボールにおけるシュートの段階的練習の展開」参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ タスクゲーム</li> <li>生徒が選択したコースを基準に、生徒ごとに入る得点が異なるゲーム</li> <li>10 ページ「Basketボールタスクゲームのルール」参照</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり、仲間との連帯感を高め、気持ち良く活動することにつながったりすることを伝える。</li> <li>・ 生徒の具体的な学びの姿から、実現状況を判断する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>◎努力を要する状況の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シュート及びレイアップシュートのフォームを、ドリブル、パスそれぞれ分けて理解させる。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切なコース選択をすることが有効であることを理解させる。</li> <li>・ シュートをねらう場所を確認する。</li> <li>・ ボールを受けたときの足を確認する。</li> <li>・ シュートが入りやすい軌道を確認する。</li> <li>・ 守備者の代わりにコーンを置く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>◎努力を要する状況の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動観察をして課題を指摘し合う。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな目標を意識し合いながらゲームを行うように伝える。</li> </ul>	<p>イ①自己の課題に応じた適切なコースを選択している。 (観察)</p> <p>イ①提示された練習方法から、自己やチームの課題を見付けている。 (観察)</p>
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整理運動</li> <li>○ 本時のまとめ</li> <li>(1)ゲーム結果、観察結果を基に、生徒同士で課題の確認を行う。</li> <li>(2)学習の成果や課題などのまとめを発表する。</li> <li>(3)教師の評価を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のねらいを振り返り、生徒の意見を聞きながらまとめをする。</li> <li>・ 次回の課題などを説明する。</li> </ul>	

バスケットボールにおけるシュートの段階的練習の展開について、示された動きに必要な技能を段階的に身に付け、統合していくといった観点から、次の6つのコースを設定した。生徒は自己の技能に応じてコースを選択するようにした。

- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| コース① | ゴール下からシュート                      |
| コース② | ドリブルで空いた空間へ移動し、レイアップシュート        |
| コース③ | 空間に走りこみ、パスをもらいレイアップシュート         |
| コース④ | フリースローラインからシュート                 |
| コース⑤ | スピードや緩急をつけたカットインプレーで守備者を抜いてシュート |
| コース⑥ | フェイントをかけ守備者のマークをはずしてパスを受け、シュート  |

図1 バスケットボールの段階的練習の展開



コース②



コース④



コース⑤

タスクゲームについては、シュート技能を十分に獲得していない生徒でも積極的にゴールをねらうことで各自の課題を発見し、次の練習で解決しようとするのと、コース①からコース⑥までの技能を行えるようにするという観点から、生徒が選択したコースを基準に、生徒ごとに入る得点が異なるゲームを実施した。

#### バスケットボールのタスクゲームのルール

- 各チームで、コース①からコース③までを選択した生徒のうち、ゴールを決めると3点となる生徒1名、ゴールを決めると5点となる生徒1名を自己申告により設定する。
- その他の生徒はすべて2点とする。

(2) 事例2 領域「球技」 ネット型 テニス

ア 学校の実態

- ・ 定時制課程第1学年3クラス(A組22名、B組21名、C組20名)の男女共修である。
- ・ 中学校において不登校などの理由で、学習の積み重ねができていない生徒が大半を占めている。欠席時数3分の1以上の生徒が多く、継続した指導が難しい状況である。
- ・ 集団行動の学習と安全面を考慮し、第1学年では、チームティーチングによる指導を行っている。

イ 指導と評価の計画(3/7時間)

時間	ねらい・学習活動	関	思	技	知	評価方法
<p>&lt;単元のねらい&gt;                      フォアハンドのストロークを中心にしてラリーの応酬ができ、簡易ゲームの中でテニスの楽しさを体験する。                      自分の課題を解決しながら個人技能を高めるとともに、自分の技能の程度に合わせて練習方法を工夫する。</p>						
はじめ	1 活動Ⅰ オリエンテーション ・学習のねらい、進め方、テニスの特性について ・自分の課題の発見と単元目標の設定 ・用具の準備、マナー、安全への注意				①	観察
なか	2 <span style="border: 2px solid black; padding: 2px;">&lt;ねらい&gt; フォアハンドを中心とした正しいフォームとスイングの習得。フットワークの習得。</span> ..... 学習の重点 ・自分にあったラケットの握り方を身に付ける。 ・仲間の学習を援助する意義を理解する。 .....	①				観察
	3 (本時) 活動Ⅰ ラケット操作について学ぶ ・ストローク(フォアハンドストローク、バックハンドストローク) ・技能段階を踏まえたストローク練習 ・サービス練習(アンダーハンドサービス、ブッシュサービス) ・ボレー練習 ・スマッシュ練習		①			
	4 活動Ⅱ フォアハンドを中心とした正しいフォームとスイングで簡素化したゲームを楽しむ ・ルールを工夫したゲーム ・班別練習			①		
	5 活動Ⅱ フォアハンドを中心とした正しいフォームとスイングで簡素化したゲームを楽しむ ・ルールを工夫したゲーム ・班別練習	②			②	
まとめ	6 ○ まとめのゲーム ・これまで身に付けた技能や審判法を生かして、自分たちで競技運営する。 ・作戦を立ててゲームを楽しむ。		③			観察
	7		③			

ウ 本時（全7時間中の3時間目）

(ア) 本時の目標

- ・ 自分の課題を見つけながら練習に取り組むことができる。
- ・ 仲間の活動を観察することで、仲間や自分の課題や課題解決に向けた取組を考えることができる。

(イ) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (方法)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整列、挨拶、出席確認及び健康状態の確認</li> <li>○ 用具の準備、準備運動</li> <li>(1) ラケットドリブル、ストレッチ、補強運動</li> <li>(2) 基本練習（素振り、トラップゲーム）</li> <li>○ 本時のねらいと評価項目の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の出欠状況、健康状態を確認する。</li> <li>・ これまでの学習を振り返りながら、本時の目標を確認する。</li> <li>・ 自分に合ったラケットの握り方を見付ける。</li> <li>・ 学習課題の解決に向けて仲間に助言するなど、仲間の学習を援助する。</li> <li>・ 準備運動を行う。</li> </ul>	
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題別ストローク練習</li> <li>(1) 仲間の学習を援助することの価値を聞く。</li> <li>(2) ①～③の中から選択する。</li> </ul> <p>13 ページ「図2 テニスにおけるストロークの段階的練習」参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ タスクゲーム</li> <li>反対側コート内に打ち返すゲーム</li> <li>・ 各コースで、10球中何球をコート内に打ち返せるか正確さを競う。</li> <li>13 ページ「テニスタスクゲームのルール」参照</li> <li>・ グループごとに、学習を援助する仲間を決めて助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり、仲間との連帯感を高め、気持ち良く活動することにつながったりすることを伝える。</li> <li>・ 生徒の具体の学びの姿から、実現状況を判断する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎努力を要する状況の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本となるラケットの握り方、正しいスイングフォームを身に付けさせる。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切なコース選択をすることが有効であることを理解させる。</li> <li>・ 身体全体を使ったスイングをすることを確認する。</li> <li>・ スピードの変化に対応してタイミングを取ることを確認する。</li> <li>・ テイクバック、インパクト、フォロースルーをリズム良く行えるよう言葉掛けを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎努力を要する状況の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動観察をして課題を指摘し合う。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな目標を意識し合いながらゲームを行うように伝える。</li> </ul>	<p>イ① 自己の課題に応じた適切なコースを選択している。 (観察)</p> <p>イ① 提示された練習方法から、自己やチームの課題を見付けている。 (観察)</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整理運動</li> <li>○ 本時のまとめ</li> <li>(1) ゲーム結果、観察結果を基に、生徒同士で課題の確認を行う。</li> <li>(2) 学習の成果や課題などのまとめを発表する。</li> <li>(3) 教師の評価を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のねらいを振り返り、生徒の意見を聞きながらまとめをする。</li> <li>・ 次回の課題などを説明する。</li> </ul>	

テニスにおけるストロークの段階的練習について、テイクバックを大きくしてラケットを水平に身体全体でスイングすることを身に付けられるようにするため、ボールが自分に向かってくるスピードを段階的にすると練習しやすいと考えた。この観点から、次の3つのコースを設定した。生徒は自己の技能に応じてコースを選択するようにした。

- |  |
|--|
| コース① 真上から落としたボールを1バウンドのタイミングで打つ。<br>コース② 近いところからトスされたボールをタイミングを合わせて打つ。<br>コース③ ネット越しに投げられたボールをねらった方向へ打ち返す。 |
|--|

図2 テニスにおけるストロークの段階的練習



タスクゲームについては、ラリーを続けるためには、まず相手コートに打ち返すことができるようになることが必要である観点から、力加減のコントロールをしてスイングし、ボールを正確に相手コートに打ち返すことができるか試せるようにした。

#### テニスのタスクゲームのルール

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ コース①及びコース②の生徒は、相手コートから投げ入れたボール10球のうち、何球を相手コート内に打ち返せるか正確さを競う。</li><li>・ コース③の生徒は、相手コートの左右のコーナーに打ち分けるといった正確さを競う。</li></ul> |
|--|

(3) 事例3 領域「球技」 ベースボール型 ソフトボール

ア 学校の実態

- ・ 全日制課程第2学年2クラス3展開選択制授業である（第2学年女子21名）。
- ・ 事前アンケート結果から中学校のときから運動に苦手意識をもっている生徒が多い。
- ・ 授業選択した生徒の中にソフトボール経験者がいない。
- ・ 全体的に指示が出るまで動かない傾向があり、リーダーとして集団をまとめようとする生徒があまり見受けられない。

イ 指導と評価の計画（8/16時間）

時 間	ねらい・学習活動	関	思	技	知	評価 方法
<p>&lt;単元のねらい&gt; 自分やチームの課題を解決しながら個人技能と集団技能を高めるとともに、自分たちの技能の程度に合わせたルールを工夫し、みんなで協力しながら相手との攻防に合った作戦を立ててゲームを楽しむ。</p>						
は じ め	<p>活動Ⅰ オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度の学習内容を確認する。</li> <li>・ 学習のねらい、進め方、ソフトボールの特性について</li> <li>・ チームや自分の課題の発見と単元目標の設定</li> </ul>					① 観察
な か	<p>2</p> <p>&lt;ねらい&gt; 安定した打撃により出塁、進塁、得点する攻撃と連携した守備のバランスのとれた攻撃でゲームを楽しむ。</p>	①				観察
	<p>3 (本時)</p> <p>&lt;学習の重点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分に合ったバットの握り方、構え方、打席の立ち方を身に付ける。</li> <li>・ 仲間の学習を援助する意義を理解する。</li> </ul>		①			
	<p>4</p> <p>活動Ⅰ 送球と捕球、投球、バッティング動作を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャッチボール</li> <li>・ 捕球とスローイング練習、ゴロ、フライ練習</li> </ul>			①		
	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技能段階を踏まえたバッティング練習</li> <li>・ ピッチング練習</li> <li>・ ストライクゾーン確認、スリングショット・ウィンドミル投法</li> </ul>	②			②	
	<p>6</p> <p>活動Ⅱ 安定した打撃により出塁、進塁、得点する攻撃と連携した守備のバランスのとれた攻防でゲームを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールを工夫したゲーム</li> <li>・ 班別練習</li> </ul>		②	②		
	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ まとめのゲーム</li> <li>・ これまで身に付けた技能や審判法を生かして、自分たちで競技運営する。</li> </ul>		③			
ま と め	<p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作戦を立ててゲームを楽しむ。</li> </ul>	③				観察

※ 2年次・3年次の2年間で8時間ずつ指導することとする。

※ 学習活動に即した評価基準の未評価部分については3年次に評価する。



ウ 本時 (全 16 時間中の 3 時間目)

(ア) 本時の目標

- ・ チームや自分の課題を見付けながら練習に取り組むことができる。
- ・ 提示された練習方法から、自己やチームの課題を見付けることができる。

(イ) 本時の展開

	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (方法)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整列、挨拶、出席確認及び健康状態の確認</li> <li>○ 本時のねらいと評価項目の確認</li> <li>○ 用具の準備、準備運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の出欠状況、健康状態を確認する。</li> <li>・ これまでの学習を振り返りながら、本時の目標を確認する。</li> <li>・ 自分に合ったバットの握り方、構え方を見付ける。</li> <li>・ 学習課題の解決に向けて仲間に助言するなど、仲間の学習を援助する。</li> <li>・ 準備運動を行う。</li> </ul>	
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題別バッティング練習</li> <li>(1) 仲間の学習を援助することの価値を聞く。</li> <li>(2) ①～③の中から選択する。</li> </ul> <p>16 ページ「図 3 ソフトボールにおけるバッティングの段階的練習とタスクゲーム」参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ タスクゲーム</li> <li>打球の飛距離を競うゲーム <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 コース全て同じ投球位置から行い、5 m 間隔で得点を設定する。各班の個人最高得点の合計を競う。</li> </ul> </li> <li>16 ページ「ソフトボールタスクゲームのルール」参照</li> <li>・ グループ毎に、学習を援助する仲間を決めて助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり、仲間との連帯感を高め、気持ちよく活動することにつながったりすることを伝える。</li> <li>・ 生徒の具体的な学びの姿から、実現状況を判断する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎努力を要する状況の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本となるバットの握り方、構え方、振り方をそれぞれ分けて理解させる。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切なコース選択をすることが有効であることを理解させる。</li> <li>・ 身体全体をつかっただのスイングを確認することを確認する。</li> <li>・ スピードの変化に対応してタイミングを取ることを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎努力を要する状況の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動観察をして課題を指摘し合う。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな目標を意識し合いながらゲームを行うように伝える。</li> </ul>	<p>イ① 自己の課題に応じた適切なコースを選択している。 (観察)</p> <p>イ① 提示された練習方法から、自己やチームの課題を見付けている。 (観察)</p>
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整理運動</li> <li>○ 本時のまとめ</li> <li>(1) ゲーム結果、観察結果をもとに、生徒同士で課題の確認を行う。</li> <li>(2) 学習の成果や課題などのまとめを発表する。</li> <li>(3) 教師の評価を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のねらいを振り返り、生徒の意見を聞きながらまとめをする。</li> <li>・ 次回の課題などを説明する。</li> </ul>	

ソフトボールにおけるバッティングの段階的練習について、バットスイングの軌道を水平に身体全体でスイングすることを身に付けられるようにするため、ボールが自分に向かってくるスピードを段階的にすると練習しやすいと考えた。この観点から、次の3つのコースを設定し、生徒は自己の技能に応じてコースを選択するようにした。

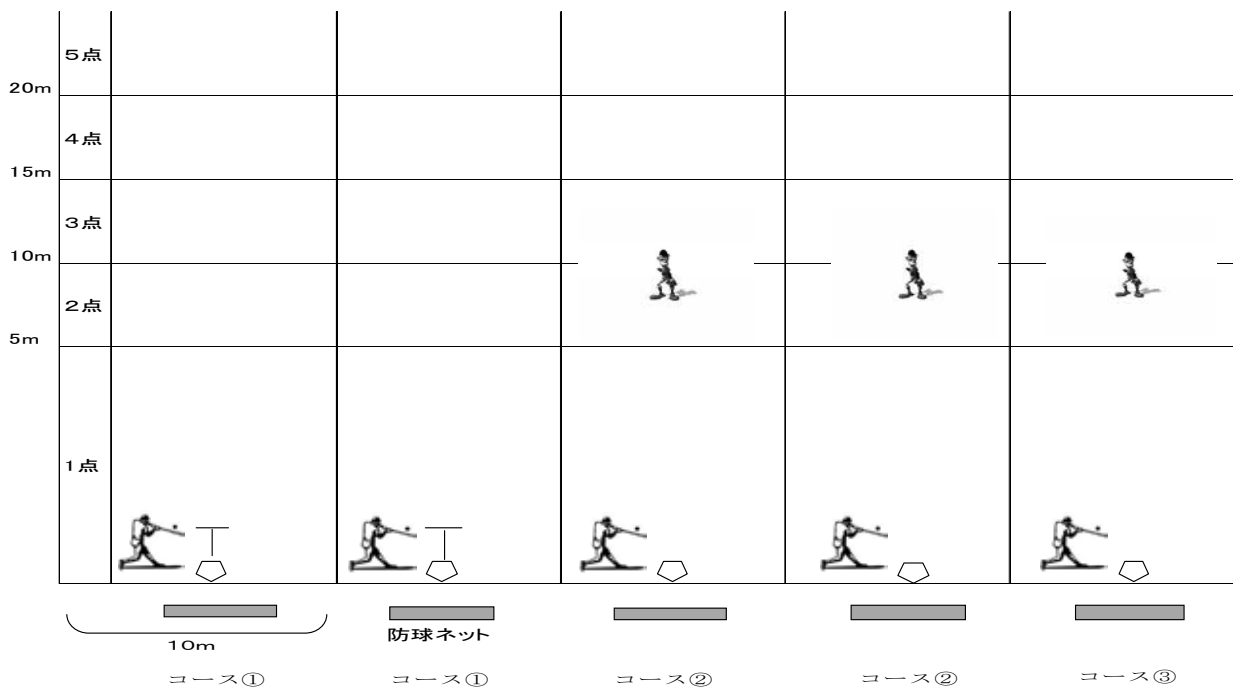
- コース① ティーを使用して止まったボールを打つ。
- コース② 投げられたボールに対し、スピードの変化へのタイミングを合わせて身体全体を使って打つ。
- コース③ 投げられたボールに対し、ねらった方向へ打ち返す。

タスクゲームについては、練習した内容を基に、ボールを遠くに打ち返すことができるか試すといった観点から、生徒は飛距離を競うゲームを実施した。

ソフトボールのタスクゲームのルール

- ・ 5コース全て同じ位置から投球する。
- ・ 打者は、5回打つ機会があり、飛距離により5m間隔で1点から5点まで得点できる。
- ・ 個人最高得点の合計点による班対抗戦とする。

図3 ソフトボールにおけるバッティングの段階的練習とタスクゲーム



コース①



コース②

#### (4) 結果

##### ア 授業1時間目終了時及び単元終了時に実施した授業アンケート結果の比較・分析

本研究では、領域「球技」のバスケットボール、テニス及びソフトボールの検証授業を行なった。表4の事前アンケート（以後、「事前」とする。）を単元の授業1時間目終了時、表5の事後アンケート（以後、「事後」とする。）を単元終了時に実施した。

それぞれ各設問については、Q1、Q2、Q3では「今までの経験における運動への印象」を、Q4では「授業への期待」を、Q5では「授業における教師の働きかけの効果」を、事前のQ6では「運動の行ない方の思考・判断」を、Q7では「運動実践における健康・安全に関する思考・判断」を、事前のQ8では「生徒から見た運動種目の特性」を、事前のQ9ではQ5「授業における教師の働きかけの効果」の具体例を調査する質問となっている。

また、事後のQ10では「自己の課題に応じた練習方法の選択」について調査する質問になっている。

表4 事前アンケート

	アンケート項目	とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
Q1	あなたは運動が好きですか。				
Q2	あなたは運動が得意ですか。				
Q3	( )は楽しいと思いますか。				
Q4	授業で( )がうまくなったと思いますか。				
Q5	教師のアドバイスでコツをつかめましたか。				
Q6	どうやらうまくなれるようになるか、考えながら運動しましたか。				
Q7	安全面で気を付けるべき点は分かりましたか。				
Q8	今後( )で一番できるようになりたいことは何ですか。	(バスケットボール) シュート ドリブル パス 分からない (ソフトボール) バッティング(打つ) ピッチング(ピッチャー) 守備(ボールをとる、投げる) 分からない (テニス) サーブ ストローク(ラリー) ボレー スマッシュ 分からない			
Q9	教師のどんなアドバイスでやる気ができましたか。具体的に書いてください。 (どんな場面で、どんなアドバイスがあった…)				

\* ( )には授業で実施した運動種目が入る。

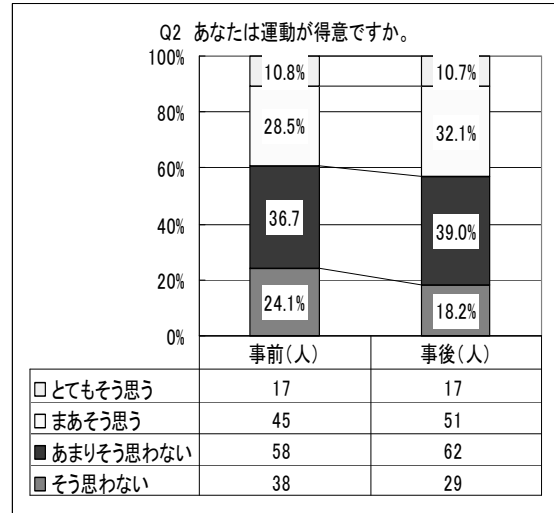
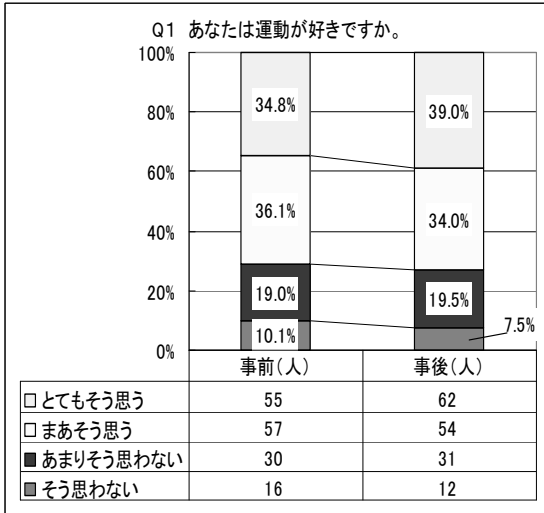
表5 事後アンケート

	アンケート項目	とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
Q1	あなたは運動が好きですか。				
Q2	あなたは運動が得意ですか。				
Q3	( )は楽しいと思いますか。				
Q4	授業で( )がうまくなったと思いますか。				
Q5	教師のアドバイスでコツをつかめましたか。				
Q6	どうやらうまくなれるようになるか、考えながら運動しましたか。				
Q7	安全面で気を付けるべき点は分かりましたか。				
Q8	今後( )で一番できるようになりたいことは何ですか。	(バスケットボール) シュート ドリブル パス 分からない (ソフトボール) バッティング(打つ) ピッチング(ピッチャー) 守備(ボールをとる、投げる) 分からない (テニス) サーブ ストローク(ラリー) ボレー スマッシュ 分からない			
Q9	教師のどんなアドバイスでやる気ができましたか。具体的に書いてください。 (どんな場面で、どんなアドバイスがあった…)				
Q10	あなたに必要な練習方法を見つけられましたか。				

\* ( )には授業で実施した運動種目が入る。

(7) 今までの経験における運動への印象

Q1「あなたは運動が好きですか。」について、事前では「とてもそう思う」「まあそう思う」が70.9%であったが、事後では73.0%となった。同様にQ2「あなたは運動が得意ですか。」では事前では39.3%、事後は42.8%となった。運動が好きな生徒、実施した種目を好きな生徒の割合が増加し、運動を苦手と感じている生徒の割合が減少した。

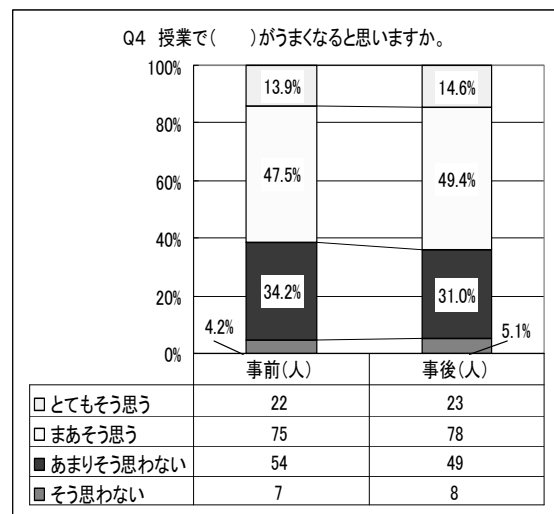
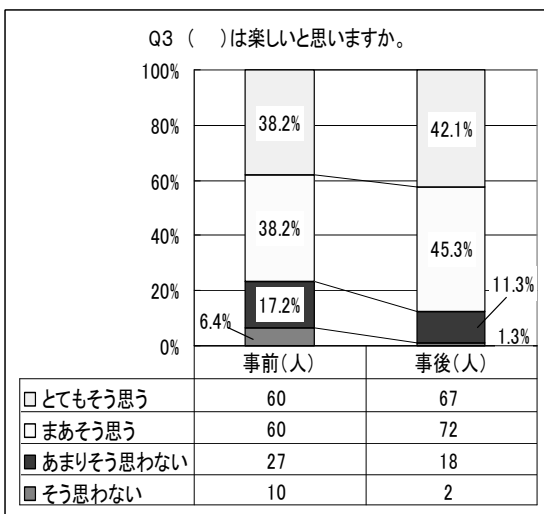


Q3「( )は楽しいと思いますか。」では事前では76.4%、事後では87.4%と、運動を楽しみと思う生徒の割合が11.0%と大きく増加した。

運動の特性に着目した授業を行い段階的な指導を行うことで、運動種目の特性を味わうことができ、運動を楽しみと思う生徒が増えたと推察される。

(イ) 授業への期待

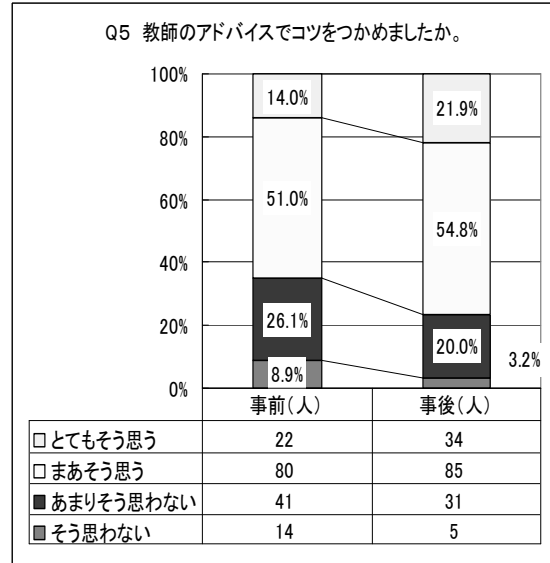
Q4「授業で( )がうまくなると思いますか。」について、事前では「とてもそう思う」「まあそう思う」が61.4%であったが、事後では64.0%となった。微増ではあるが、単元開始時から授業に対する期待が高まったのではないかと推察される。



(ウ) 授業における教師の働き掛けの効果

Q 5「教師のアドバイスでコツをつかめましたか。」について、事前では「とてもそう思う」「まあそう思う」が 65.0%であったが、事後では 76.7%となった。

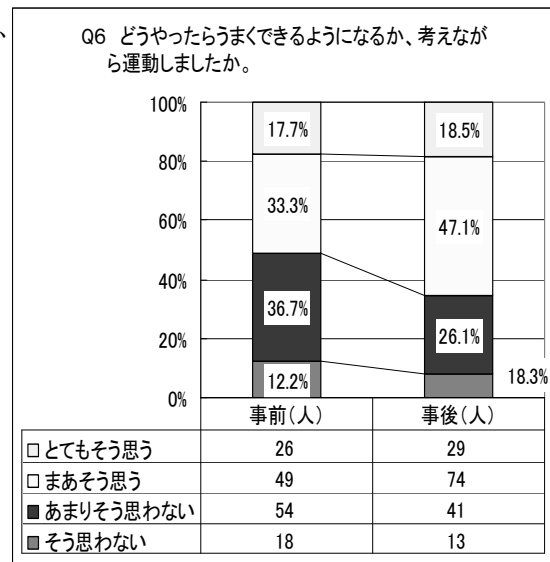
このことから、教師からの自己やチームの課題に応じた適切な理論的・段階的指導により、運動のコツをつかんだ生徒の割合が増加したことが推察される。



(エ) 運動の行ない方の思考・判断

Q 6「どうやったらうまくできるようになるか、考えながら運動しましたか。」について、事前では「とてもそう思う」「まあそう思う」が 51.0%であったが、事後では 65.6%となった。

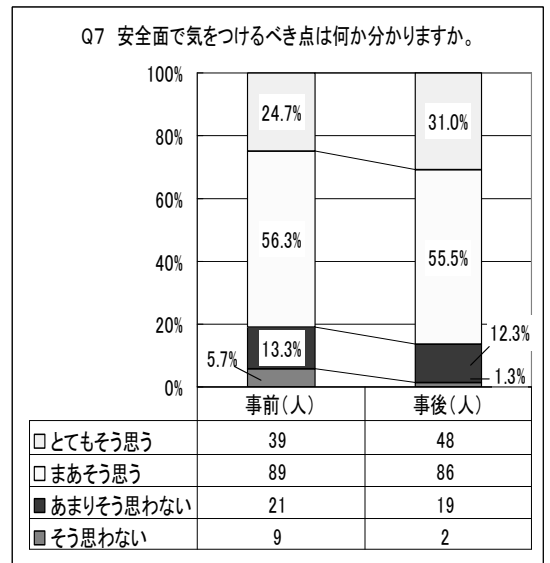
このことから、運動種目の特性を理解し味わうことにより、学習意欲が向上し、自ら進んで課題設定を行い思考・判断を行いながら運動を取り組んだことが推察される。



(オ) 運動実践の健康安全に関する思考・判断

Q 7「安全面で気を付けるべき点は何か分かりますか。」について、事前では「とてもそう思う」「まあそう思う」が 81.0%であったが、事後では 86.5%となった。

安全面について思考・判断して学習を行っている生徒が増えたことが推察される。



(カ) 生徒から見た運動種目の特性

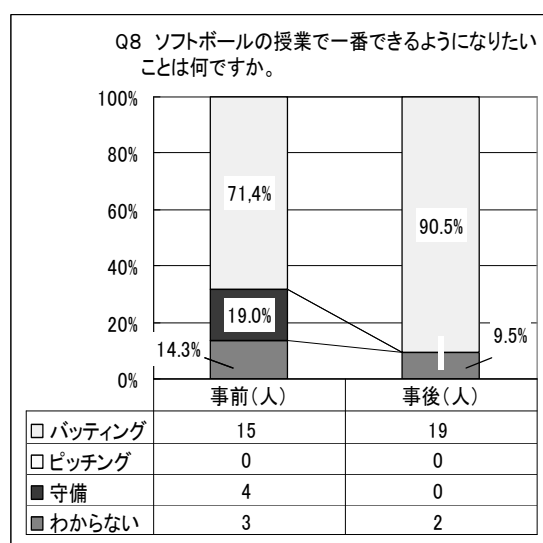
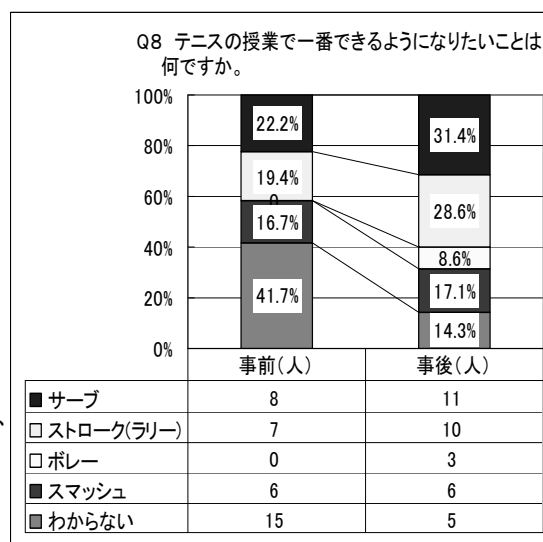
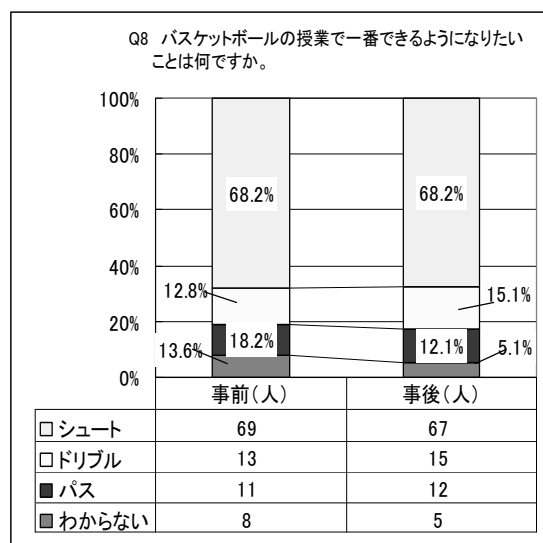
Q8 「( ) の授業で一番できるようになりたいことは何ですか。」について、バスケットボールでは、事前は「シュート」が68.2%、「ドリブル」が12.8%、「パス」が18.2%、「わからない」が13.6%であった。事後では「シュート」が68.2%、「ドリブル」が15.1%、「パス」が12.1%、「わからない」が5.1%であった。

テニスでは、事前は「サーブ」22.2%、「ストローク(ラリー)」が19.4%、「ボレー」が0%、「スマッシュ」が16.7%、「わからない」が41.7%であった。事後では「サーブ」31.4%、「ストローク(ラリー)」28.6%が%、「ボレー」が8.6%、「スマッシュ」が17.1%、「わからない」が14.3%であった。

ソフトボールでは、事前は「バッティング」71.4%、「ピッチング」が0.0%、「守備」が19.0%であったが、事後では「バッティング」が90.5%、「ピッチング」が0.0%、「守備」が9.5%であった。

事前と事後において、「わからない」と回答した生徒数と割合を比較すると、バスケットボール、テニス、ソフトボールのどの運動種目でも「わからない」の割合が減少した結果となった。

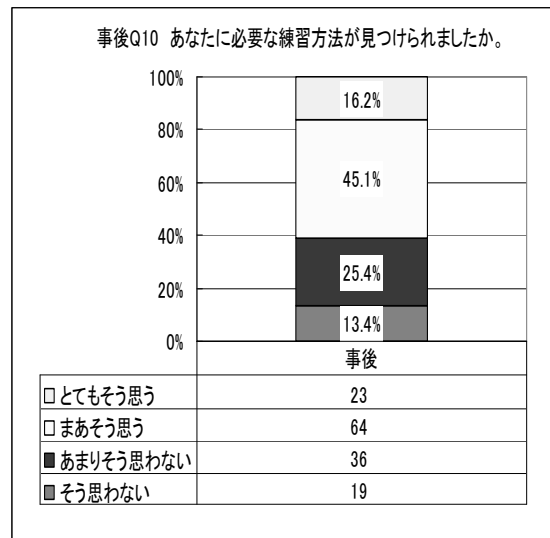
これらのことから、生徒は、運動種目の特性の理解を通して、授業で学習したい内容が明確になっていったと推察される。運動種目の特性を深く味わうことができる授業展開は、生徒の学習意欲を高めていると考えられる。



(キ) 自己の課題に応じた練習方法の選択

事後Q10「あなたに必要な練習方法が見つかりましたか。」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が61.3%であり、「あまりそう思わない」「そう思わない」が38.8%であった。

運動の特性を踏まえた合理的・段階的な練習方法を設定し、生徒自身が自己に合った練習方法を見付けることができ、思考力・判断力の向上を図ることができたのではないかと考えられる。



イ 授業中の歩数測定による生徒の身体活動量（歩数）の推移

検証授業における全ての生徒に毎時間歩数計を装着させ、歩数の推移を調べた。事前のQ1「あなたは運動が好きですか。」、Q2「あなたは運動が得意ですか。」において、3「あまりそう思わない」、4「そう思わない」と回答した生徒（以下、運動苦手・運動嫌い生徒）の平均歩数について、●グラフで表示した。また、事前のQ1、Q2において、1「とてもそう思う」、2「まあそう思う」と回答した生徒（以下、運動得意・運動好き生徒）の平均歩数について▲グラフで表示した。

(ア) 事例1 ゴール型 バasketボール

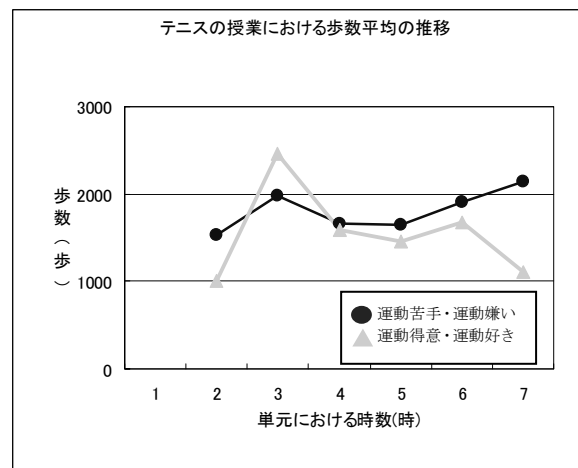
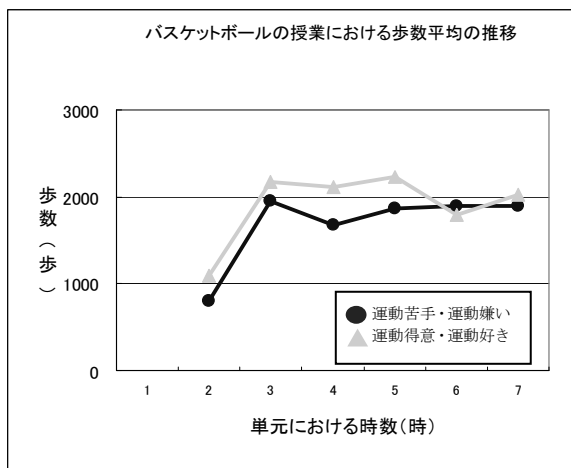
第1時間目は、オリエンテーションのため、歩数計を装着しなかった。

第3時間目以降、第2時間目で学習した内容をもとに、段階的な練習選択を行った。運動苦手・運動嫌い生徒の歩数平均は、運動得意・運動好き生徒の歩数平均よりも、少ない傾向を示していたが、第6時間目からほぼ同数の水準となった。運動苦手・運動嫌い生徒は、能動的に学習していたと推察される。

(イ) 事例2 ネット型 テニス

第1時間目はオリエンテーションのため、歩数計を装着しなかった。

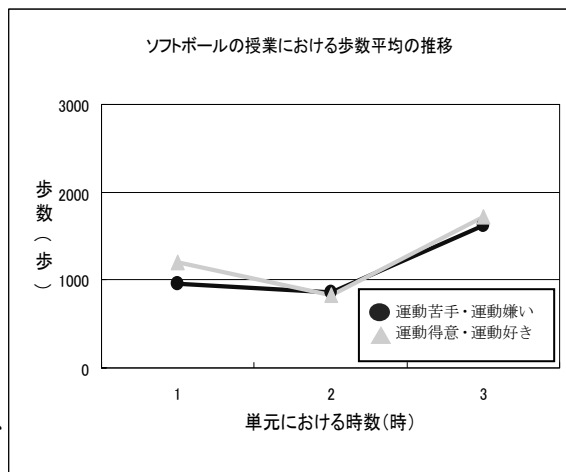
第4時間目以降、運動苦手・運動嫌い生徒の歩数平均は、運動得意・運動好き生徒の歩数平均よりも、高い水準を保ちつつ、増加していった。段階的指導により、運動への興味・関心が高まり、積極的に運動を行なったのではないかと推察される。



### (ウ) 事例3 ベースボール型 ソフトボール

第2時間目に段階的指導であるティーバッティングを行ない、第3時間目は課題別学習とした。運動苦手・運動嫌い生徒の歩数平均は、運動得意・運動好き生徒の歩数平均とともに、第3時間目に歩数平均が増加した。また、運動苦手・運動嫌い生徒の歩数平均は、運動得意・運動好き生徒の歩数平均と同程度の歩数を示した。

課題別学習の内容、方法を理解したことから、自己やチームの課題に応じた学習を能動的に行う姿勢が現れたと推察される。



## VI 研究の成果

アンケート調査で生徒の運動経験及び生徒の運動に関する意識を事前に把握した。これまでの運動経験や運動に対する関心・意欲を調査し、その変容が分かるようにした。

また、教師の働き掛けの効果や運動の仕方の思考・判断について、事前アンケート及び事後アンケートを実施することで生徒の実態を把握し、運動が苦手な生徒や嫌いな生徒に対して、運動種目の特性を踏まえた段階的練習方法を設定し、その変容を見ることができた。

### 1 運動種目の特性を踏まえた段階的指導の工夫

各種目において、運動種目の特性に着目し、特に運動が苦手と感じている生徒へのアプローチとして段階的指導を取り入れた。

当初は、「何ができるようになりたいか分からない。」と答えていた生徒もいたが、種目の特性を伝え触れさせることで、生徒が明確に「何を学習したいか。」をもつことができ、それが学習意欲の向上にもつながった。

技能段階を踏まえた練習では、生徒が自ら学習を選択する場を設定することで運動が苦手と感じている生徒も意欲をもって取り組むことができるようになった。アンケートによる自己評価でも、授業で技能が向上したと感じた生徒が多かった。

運動が苦手と感じている生徒は、活動にも消極的になりがちだが、運動の特性に触れやすくするために段階的指導を設定することで、各種目における生徒がうまくなりたい技能を重点的に練習することができ、運動が苦手と感じる生徒の学習意欲を高めることができた。

また、身に付けた技能や知識を活用し、ルールを工夫したゲームを通して運動種目の特性を深く味わうことができる指導を行い、生徒の思考・判断を促すことができたと考えられる。

### 2 評価の工夫

事前アンケートにより、生徒の運動経験及び生徒の運動に関する意識を把握し、授業において生徒の実態や運動の特性を踏まえた合理的・段階的な練習方法を設定し、生徒自ら考えて活動する場面を作ることで、自分に必要な練習方法を選択し、うまくなるように自ら考えながら運動ができた。

生徒一人一人に対し、技能の習得状況や思考・判断している様子を教師が丁寧に評価することで、生徒は自己の技能段階を的確に把握し、自分の課題に応じた練習に意欲的に取り組むよ



うになっていった。

加えて、グループを分けて行うことで、生徒同士の助言や励ましなどが見受けられ、授業の活性化につながった。

### 3 授業改善の方策

運動が苦手と感じている生徒に対して、分かる・できる気持ちができるよう技能面での的確な助言と文字での視覚的な説明を生徒の技能段階に応じて行った。

生徒の事後アンケート結果における「教師のどんなアドバイスでやる気がでたか。」の項目において、バスケットボールにおいては「シュートをする時に手を外側に向ける。」「シュートのねらうところ」など、シュートの仕方やボールの持ち方について、ソフトボールでは「バットを短めに持つと当たりやすくなると言われた。」「バットが水平になるように振る。」など、バットの持ち方やスイングの仕方についての記述があり、教師の具体的な働きかけで技能のコツをつかみ、生徒の学習意欲を引き出すことができた。

### 4 授業中の歩数測定による生徒の身体活動量（歩数）の推移

運動の特性を踏まえた合理的・段階的な練習方法を行い、生徒の学習意欲が高まると身体活動量（歩数）が増えるだろうとの予想から、その様子を客観的に把握するために、授業時間において歩数計を使って歩数を測定した。

運動が苦手や運動が嫌いと思っている生徒について、技能段階を踏まえた練習を設定することによって歩数の平均値は向上したことから、自ら関心をもって取り組み能動的に学習していたと考えられる。また、生徒自身も自分の身体活動量を一つの指標として知ることができ、副次的に学習意欲を高めるきっかけとなった。

これらのことから、運動が苦手な生徒や嫌いな生徒に対して、運動種目の特性を踏まえた合理的・段階的な練習方法を設定し、分かる・できる気持ちをもつことができるよう、自己やチームの課題に応じた適切な指導・助言を行うことで、生徒が自己の技能段階を的確に把握し、自分の課題に応じた練習に意欲的に取り組むようになった。また、生徒一人一人に対し技能の習得状況や思考・判断している様子を教師が丁寧に評価することで、生徒は、意欲的に練習し、課題解決の体験や適切な評価により達成感を得られ、新たな目標設定を行い課題解決に取り組むなどの主体的な学習活動を継続して行うようになる仮説は、立証されたとと言える。

## VII 今後の課題

本研究では、球技のゴール型・ネット型・ベースボール型の授業の中で、運動種目の特性に触れやすくするために段階的指導を行った。他の領域についても、段階的指導やより分かりやすい教師の働き掛け・教材の継続的な工夫が必要である。

また、今回は高等学校全日制課程2校及び定時制課程1校に在籍している生徒を対象とした。生徒の実態や各校の実態は多様であることから、それぞれの実態に合わせた授業時間数を設定し、単元内容を充実させるとともに、生徒の技能段階に応じた指導内容を工夫する必要がある。

評価については、学校の実態に応じた生徒による相互評価などを取り入れることで、授業が活性化し、より生徒の学習意欲も高まるのではないかと考える。

思考力・判断力の育成については、意図的に思考・判断する場面を作ることで、一定の成果は得られた。今後、生徒自らが授業の中でより自然に思考・判断できるように、全ての単元においても意図的・計画的に実践していく必要がある。

授業改善については、ソフトボールの検証授業では、タスクゲームにおいて縦横のラインを設定したが、試合を意識したバッティングを練習するには、実際の試合で使用するダイヤモンド型に設定し直すなど場の設定について新たな課題が現れた。生徒の実態や運動種目の特性に応じて工夫を重ねていく授業改善が必要である。

このように、教師には、生徒が身に付けたい技能を的確に把握し、それらを練習して実際のゲームで生かすための工夫・改善をする必要も出てくる。本研究では単元の中で運動種目の特性を味わわせることで、運動が苦手な生徒、嫌いな生徒が運動に向き合い意欲的に学習していくようになった事例を提供することができた。こういった生徒の運動に対する学習意欲を継続的に高めていくためには、全ての単元において運動種目の特性を理解し、生徒の実態に合わせた指導を行っていく教師の努力が必要不可欠である。

## 引用・参考文献

- 1 立木正 「体育嫌いを生み出す原因に関する研究：東京学芸大学学生の意識調査から」 平成9年 東京学芸大学紀要第5部門第49集
- 2 指導資料「運動の楽しさを味わう学習指導の在り方」 平成21年 鹿児島県総合教育センター 保健・体育第35号
- 3 茨城県教育研修センター研究協力員 「論理的思考力をはぐくむことを目指した体育・保健体育科学習指導の展開－集団活動や身体表現などの活動を通して－」 平成23年度茨城県教育研修センター研究報告書 第76号-3
- 4 大城戸靖雄ほか 「体育科、保健体育科における思考力、判断力、表現力等の育成」 平成23年度熊本県立教育センター研究紀要 第40集
- 5 新潟県柏崎市立第一中学校教諭吉田聡 「思考力・判断力を高める指導の工夫」 平成23年 上越教育大学学校教育実践研究センター教育実践研究第21集
- 6 青森県総合学校教育センター高校教育課指導主事竹谷澄子他4名 「高等学校における思考力・判断力・表現力を伸ばす指導法に関する研究－教師力の向上を目指して－」 青森県総合学校教育センター研究紀要
- 7 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 保健体育）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～」 平成24年3月 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- 8 吉田浩司 「ろう学校生徒のコミュニケーション・スキルを高めるバスケットボールの授業－仲間とのかかわり合いを通して－」 平成23年度神奈川県立体育センター長期研修研究報告
- 9 杉山重利・高橋健夫・園山和夫・細江文利・本村清人編集 「新学習指導要領による高等学校体育の授業 下巻」 大修館書店
- 10 実技副教材「ステップアップ高校スポーツ2013」 大修館書店
- 11 実技副教材「アクティブスポーツ[総合版]2013」 大修館書店
- 12 高石昌弘・加賀谷滌彦ほか 「最新保健体育【保体008】」 大修館書店

# 平成25年度 教育研究員名簿

## 高等学校・保健体育

学校名	課程	職名	氏名
都立大田桜台高等学校	全日制	主任教諭	○牟田 浩
都立練馬高等学校	全日制	教諭	渡邊 敬太
都立竹台高等学校	全日制	主任教諭	谷垣 泰則
都立飛鳥高等学校	定時制	教諭	木下 理恵
都立葛西南高等学校	全日制	教諭	松山 貴紀
都立荒川商業高等学校	定時制	教諭	佐久間 穂
都立武蔵野北高等学校	全日制	主任教諭	◎安藤 秀紀

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事 石田 和仁

平成25年度  
教育研究員研究報告書

高等学校・保健体育

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕

平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 昭和商事株式会社